

# 7

## 願いごと



わたしはコップの冷たい牛乳<sup>ぎゅうにゅう</sup>をちびちび飲み、犬は台所の隅<sup>すみ</sup>にある新しい自分局のボウルから、水をガブガブ飲んだ。この台所にも、この家にも、だいふなれてきたようだ。

あんたが大きいだつてことと、ここにずうつといいていいつてこと、わかってくれてるといいんだけど。

コップを流しにおいて台所を出ると、自分の部屋に入った。コラおばさんがおばさんが教会に花を飾り<sup>かざ</sup>終えて帰<sup>お</sup>ってくる前に、いろいろと考えておかなかくちやならないことがある。

ベッドにすわると、ベッドカバーが目に入る。コラおばさんがつくってくれたパッチワークのキルト。青と緑の布を組み合わせたキルトは、この島をとりまく海、おだやかな日の海の色だ。涙<sup>なみだ</sup>があふれそうになって、窓<sup>まど</sup>を見た。カーテンが風にふかれ、網戸<sup>あみど</sup>をたたいている。足もとには、青と紫<sup>あざ</sup>の古布<sup>ふるふ</sup>で編んだマット。おばさんといっしょにくったものだ。